

「方正地区日本人公墓」と刻んである公墓の左隣に「麻山地区日本人公墓」がある。麻山は現在、黒竜江省鶏西市麻山区、省の東寄りロシアに近い所である。

1945年8月12日、ソ連軍に攻撃された哈達河開拓団は絶望的な状況にあった。このままでは婦女子たちがソ連軍の凌辱に遭う。身近に迫った危機に、420名ほどの婦女子は団長とともに自決の道を選んだ。

麻山で散った女性たちの遺骨は野ざらしになっていた。戦後、遺族たちはなんとか遺骨を収集し慰霊したいと思っていた。遺族たちが哈達河会を結成し、1982年初めて鶏西市を訪れた。その時は大雨が続き、麻山に行かれず、翌年再度訪問し麻山を訪れたが、写真撮影も慰霊行事も許可されなかった。散乱する遺骨を前に再度、遺族たちは涙を吞んで帰国した。

その後、金丸千尋さん(方正友好交流の会顧問。敗戦後、人民解放軍に入り、ずっと日中友好運動に取り組んできた)らの努力によって遺骨収集が実現し、1984年中国政府はこの地に公墓を建立してくれた。それが麻山区区日本人公墓である。

この二つの公墓から数メートル離れた所に「中国養父母公墓」が立っている。“残留孤児”として育った遠藤勇さんは中国名「劉長河」として育ち、ハルビンでロシア語教師として生活していたが、おぼろげながらも両親の顔を思い、やっと実父の所在を確認し、文通を始め帰国申請した。しかし文革で挫折。日中国交回復後、帰国が実現、実父のいる岩手県岩泉町で過ごし、その後貿易会社を興し成功した。遠藤さんは自分が育った方正県を忘れず、中国人養父母を常に思い、欠かさず中国へ仕送りをしてきた。

その養父が亡くなった後、遠藤さんは中国にいる日本人孤児たちを育てた養父母たちの安住の地を作ろうと養父母公墓建立を思い立った。当時の中国では墓地

を持てる人も少なく、遠藤さんは養父母たちへの報恩の気持ちを墓所建設にと思い中国側と交渉したが難航した。しかし「養父母たちへの報恩の気持」が中国側を納得させた。1995年8月「中国養父母公墓」の除幕式が行われ、遠藤さんは養母・呂桂雲と共に参列した。

この中国養父母公墓からまた数メートル離れたところに2004年9月、「藤原長作記念碑」が立った。藤原さんは1912年12月、岩手県沢内村で生まれた。「米作り日本一」として仰がれるほどの人だったが、減反政策で自ら作り出した水稻栽培技術が日本では不要になってきた。

中国の寒冷地でこそ藤原式稲作方法が役立つと1980年初訪中。そして翌年から方正県で実践、多大な成果を収めて東北全土から中国全土に藤原式稲作法が拡大した。故・岡崎嘉平太さんは、「中国に対する賠償に代わる大事業を成した」と称賛するほどの大仕事だった。

筆者自身2008年夏ハルビンで、王英春さん(当時、黒竜江省外事弁公室副主任)から「東北三省の人間は誰もが藤原さんの名前を

知っている。おいしい白米が食べられるのは本当に藤原さんのお蔭だ」と聞いた時には、やはりそうかと改めて藤原さんの業績を実感したものだ。

友好の深い心をあらわすこのような石碑を囲んで中日友好園林がある。そこに方正日本人公墓が立っている。

(このシリーズは終わります)

友好の原点を刻む中日友好園林
(方正日本人公墓とは何か③)
方正友好交流の会事務局長・大類善啓



中国人養父母公墓



藤原長作記念碑

正友好交流の会

公墓の存在をより多くの人たちに伝えるべく、ぜひ会にご参加を!

101-0052 千代田区神田小川町 3-6
(社)日中科学技術センター内

☎ 03-3295-0411

E-mail:ohrui@jcst.or.jp

- ◆ 個人会員会費、一口 1000 円
(口数は最低一口、上限なし)
- ◆ 郵便振替口座番号 00130-5-426643
加入者名方正友好交流の会